国見町立県北中学校　学校だより

あすなろ

自ら進んで学習する生徒
すなおで豊かな心を持つ生徒
責任ある行動をとる生徒
健康安全に心がける生徒

３　月　号
平成３１年３月１５日
発行者：　校長　梅宮　賢

第69回卒業証書授与式　「力強く　しなやかに」　～校長式辞より～

～　略　～

皆さんは、本校の誇りです。校内のみならず、さまざまな場で皆さんのすばらしさを伝えてきたつもりです。普段の授業、さまざまな学校行事、部活動の練習や大会、コンクール等々、その姿は中学生として模範的であり、その都度、感動を味わわせていただきました。素直で、穏やかで、ひたむきで・・・。ですから、今日のような「晴れの日」には、そのすばらしさをもう一度讃え、卒業に花を添えるべきところですが、今日は、心に留めておいてほしいことについて二つ話し、はなむけの言葉に代えたいと思います。

一つ目は**「自分の足で歩く」**ということです。皆さんは、ご家族や地域の方々にこよなく愛されてきました。朝の時間、校舎周辺に立っていると、お父さん、お母さん、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんが、車で送迎をしてくれたり、忘れ物を届けに来てくれたり、愛する我が子、孫のために献身的にサポートしている姿をよく見かけました。義務教育が終わるということは、四月から社会人として働くことができる年齢に達したということです。自分でお金を稼ぎ、自分で生活することが求められてもおかしくない年齢であるということです。この機会に、あたりまえにサポートしてもらっていたことを見直し、自分でできることを自分で行ってほしいと強く願っています。自分の足で歩き、自分で行先を決め、自分が決めたことに責任をもって生きていくこと、すなわち**「自力で人生を歩んでいく力」**が君たちには必要であると思うのです。

二つ目は**「対立を恐れるな」**ということです。皆さんのほぼ全員が、義務教育の大部分を同じ学校で過ごしてきました。仲間と同じ時間を共有することで強い絆が育まれたと思いますが、一方で異なる意見や考えについて、「まあ、いいか」と済ませてきたことが少なからずあったのではないでしょうか。不要な争いはしたくないからと、自分の意見や考えを閉じ込めてきたことがあったのではないでしょうか。ハーバード大学のスティーブン・ピンカー氏の著書によると、人類史上、今が最も平和な時であるそうです。その「平和な今」でさえも、世界を見渡すと紛争や意見の対立があることを皆さんは知っていると思います。グローバル社会において、対立はつきものです。これから出会うであろう新しい仲間とは、今まで以上に意見や考えの相違はあると思います。そのようなときに「けんかをしなさい」と言っているわけではありません。なぜそのように考えるのかを理解し、自分の考えを的確に伝えて、その上で折り合いをつけたり、互いに納得する合意を形成したりすることができるようになってほしいのです。これから、ますます変化が激しくなると言われている社会においては、この力が重要であると思います。すなわち、**「対立を恐れずに合意を形成する力」**を身に付けてほしいのです。

素直で、穏やかで、ひたむきな卒業生の皆さんならば、きっとよりすばらしい人生が送れるのではないかと信じています。ふるさと国見を愛し、これまでのご支援に対し、ご家族や地域の皆様に感謝しながら**「力強く、**そして**しなやかに」**人生を切りひらいていかれることを心より期待しています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。すばらしい生徒でした。しかしながら、思春期真っただ中の中学生の子育てには、ご苦労もあったのではないかと思います。時には話を聴き、共に悩み、時にはぶつかり合い、諭したり、背中を押したりしてきたからこそ、この立派な姿があるのだと思います。今日までご苦労様でした。また、ありがとうございました。

結びに、本校教育の充実発展のためにお力添えを賜りましたご来賓の皆様、コミュニティ・スクール委員会などを通して、あらゆる角度から地域とともにある学校の在り方を共に考えてくださった地域の皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、卒業生のこれからの人生に、幸多きことを祈りつつ式辞といたします。

※　ありがとうございました。

「感謝」「決意」「感動」の卒業式

第６９回卒業証書授与式は、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、厳粛な中にも感動がある式になりました。町教委教育長　岡崎忠昭様より教育委員会告辞として、町長　太田久雄様、町議会議長　東海林一樹様、ＰＴＡ会長　古山恵様より祝辞として､心のこもったご挨拶をいただきました。在校生代表の送辞は、生徒会副会長の吉田真彩さんが行い、卒業生に感謝の言葉を贈り、卒業生代表の答辞は、前生徒会長の齋藤優衣さんが行いました。担任の先生と共に創りあげた学級のカラーを紹介しながら、「先生、地域の方、家族に感謝し､それぞれの人生を歩んでいく」と述べました。このことは３月１４日付け福島民友、３月１５日付け福島民報にも掲載されました。また、ももたんＦＭ（ふくしまＦＭ）の取材もあり、式や見送りの様子が収録されました。＜３月２２日（金）１０：００オンエアの予定です。＞

卒業式は、義務教育を締めくくる中学校最大の行事です。卒業生の呼名に対する大きな返事、体育館に響き渡る美しい歌声から、今後の活躍を誓う決意を感じました。在校生も会場作成等に積極的に取り組み、参加態度も立派でした。すばらしい式となりました。

「平成30年度」お世話になりました

保護者の皆様、地域の皆様には、ＰＴＡ活動やコミュニティ・スクールとしての機能の充実を目指し、本校の教育活動へのご理解とご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。平成３０年度もあとわずかとなりました。間もなく新しい元号になりますが、次年度（平成の次の時代）についても変わらぬご支援をお願いいたします。

「『3.11』あの日から8年」

３月１１日（月）で東日本大震災と福島原子力発電所の事故から丸８年になりました。本校においても、亡くなった方々のご冥福を祈り、「あの日に何が起こったのか」、「私たちに何ができるのか」「何をしなければならないのか」を考える機会にしようと、テレビ放送による講話集会を行いました。新聞等にも掲載されました知事メッセージの冒頭には、浪江町の請戸小学校卒業の新成人横山和佳奈さんのコメントが載っています。「人生を変えるほどの出来事だった。先生の的確な判断がなければ、自分たちはこうして成人を迎えられなかったかもしれない。」という内容でした。

～　集会で紹介したエピソード～

昨年の８月、請戸小学校を訪問してきました。請戸小学校は、津波を受けた校舎がそのままの状態で残っており、今後見学ができる施設として残されるそうです。当時のことをよく知っている方に話を聴くと、「津波の恐れがある時の避難場所に児童が全員たどり着くまでは、引き渡しはしないこと」を徹底したそうです。周辺の道路は渋滞していたので、安易に引き渡したら、津波にのみこまれてしまったかもしれません。

多くの人々が犠牲になった「３．１１」。その一方で、的確な判断により生きている人がいる事実を鑑みると、私たちは東日本大震災の教訓を伝えていく義務があると思っています。新聞、テレビ、ラジオなどで、今年もたくさんの震災に関する出来事が紹介されていました。まもなく震災の記憶がない子どもたちが中学生になる時代となります。福島県民として、震災をよく知り、その教訓を後世まで伝えることができるよう、ご家庭でも話題にしていただきたいと思います。

３月後半の主な予定

日付	曜日	行　　事
１５	金	新入生オリエンテーション
１８	月	AED 講習会（２年） PTA 会計監査
１９	火	SSW
２０	水	
２１	木	春分の日
２２	金	修了式　　部活なし
２８	木	離任式

※　春休み中の部活動の予定は後日配付されます。

４月前半の主な予定

日付	曜日	行　　事
1	月	着任　職員会議　　部活なし
2	火	職員会議　　部活なし
8	月	着任式　始業式　入学式 部活なし
9	火	新入生を迎える会
１０	水	身体測定（１、３年）部活なし
１１	木	ふくしま学力調査（１、２年） 総合学力調査（３年） 身体測定（２年）
１２	金	知能検査（１、３年）
１５	月	時間割開始　生徒会専門委員会